平和研所内会議

2010 年 11 月 1 日(月) 開催
テーマ:「グローバリゼーションとヨーロッパ政治の変容」
報告者:花田吉隆(主任研究員)

概要

(1)欧州でもグローバル化は勝者と敗者を生んだ。勝者は主として「グローバル競争に晒されたセクター」「高い技能を有する者」「コスモポリタン・シテイズン」であり、敗者は「伝統的セクター」「非熟練労働者」「ナショナル・コミュニテイーに強いアイデンテテイーを有する者」である。このグローバル化勝者と敗者は新たな政治的ポテンシャリテイーとなり、政党はこの新しいポテンシャリテイーの獲得を巡り変容していく。

(2)元々、欧州政治は経済対立軸と文化対立軸の二次元で分析される。第二次大戦後この対立軸が二回大きな変化に見舞われた。第一回が60年代末の「文化革命」であり、第二回目が今回の「グローバル化による変容」である。

(3)60年代の文化革命は、二つの対立軸のうち文化対立軸の中身を変えた。即ち文化対立軸はそれまで「宗教対世俗」乃至「カトリック対プロテスタント」だったが、60年代以降、「文化リベラル」と「文化保守(キリスト教的価値、家族、軍事)」の対立となった。

(4)現在のグローバル化は更にこの文化的対立軸の中身を変える。即ち、グローバル化を機に、文化的対立軸のうち「文化保守」が、「キリスト教的価値、家族、軍事」から「移民反対、伝統的価値」へと変化した。

(5)これに対し既存政党は、この変化にうまく対応したところもあり、例えば英労働党(ニューレーバー)や、オーストリア自由党は党の再組織化にうまく成功した例である。しかし多くの政党は未だ再組織化の途上にあり、中でも主要政党は新たな路線を巡り混迷を深めている。その結果、主要政党に代わり弱小政党が進出してきた。

(6)弱小政党のうち、「右」は「文化的」保護主義を、「左」は「経済的」保護主義を強く打ち出す。有権者に強くアピールしたのはこのうち「右」の「文化的」保護主義である。即ち欧州では、グローバル化は有権者の経済的不安を引き起こす以上に文化的不安を引き起こした。ここに、欧州でポピュリストライト(極右)が伸張する背景がある。

以 上

© Institute for International Policy Studies 2010